

第 37 回名東高校スピーチコンテスト (MEITO SR.HIGH SCHOOL'S 37th ANNUAL ENGLISH SPEECH CONTEST) ～入賞者のコメント～

レシテーションの部 1 位 1 L 下野まとい さん

まず、担当の先生、一緒に高めあった仲間、応援してくれた友達、ずっと陰で見守ってくれた家族、すべての人に感謝の気持ちでいっぱいです。絶対に自分一人では成し遂げることはできませんでした。人前で英語を話す機会はなかなかないと思うので、とても良い経験ができました。辛いことや大変だったことも多かったです、やってよかったなと思いました。一番大変だったことはどう自分の感情を表現するかという点です。原稿の意味をしっかり理解して、自分の思いと照らし合わせながら、聞いている人に何を伝えたいのかを意識しました。それでも何度も何度も、先生に「感情がこもっていない。何を伝えたいのかわからない。変わっていない。パワーやエネルギーを感じない。」と言われました。ですが諦めず、改善を重ねていき、初めて褒められたときはとてもうれしかったです。挑戦することは少し怖いですが、それを乗り越えたら、自分でも成長を感じられるくらい強くなっていると思います。



レシテーションの部 2 位 1 F 荒川真衣子 さん

今回賞を頂けてとてもうれしかったです。普通科からの出場者は私以外に誰もおらず、初めは不安な気持ちが大きかったです。ですが、練習するうちに、不安な気持ちよりも頑張ろうという気持ちの方が大きくなっていきました。昼休みに体育館に行き練習をしたり、マキ先生のところでは指導をしていただく中で、ほかの出場者の練習の様子を見ることがありました。その時に刺激を受けることが多く、より練習に力が入りました。本番では前にスピーチをしている子の発音が流暢で自信を無くしそうになりました。しかし待機中に心を落ち着かせ、今までの成果を発揮しようと前向きな気持ちに切り替えることができたので、実力以上の力が出せました。最後に来年度以降の出場者に一つメッセージを残そうと思います。「とりあえずやってみよう」と思うことが大切だと感じます。「とりあえずやってみて難しかったらやめれば良い」と私は思うので、今回のスピーチでも、予選・決勝と失敗しても、「よい経験になった」と私は感じると思います。自分がやりたいことに気楽に取り組むことは難しいかもしれませんが、気負わずに積極的に行動するのもよいと思います。

レシテーションの部 3 位 1 L 佐藤 麗香 さん

コロナ禍で開催できるのか不安だったけれど、無事に本番を迎えることができ本当に良かったです。練習通りに自分の想いを言葉に乗せて伝えるという目的を果たした今、私の中に思い残すことはありません。舞台上上がったから最初の一文を口にするまでは少し緊張している自分でしたが、話し始めてからは一切緊張しませんでした。その訳は、その題材、つまりその言葉が終始私の言葉だったからだと思います。なので、何かを人前で話す時は、自分が一番伝えたいことにしてください。そして、上手く伝えるために言葉選びをしている時間、声に出している時間、それらは全て自身と向き合っている時間になります。自分の力で「新しい自分」に会いに行きませんか。



スピーチの部1位 2L 両角 優衣 さん

まずは、私がこのような素晴らしい賞を頂くことができたのは、一緒にスピーチの練習をしてくださった先生方と、支えあいながら頑張ってきたみんなのおかげです。本当に感謝しています。私はこのスピーチコンテストに出ることになった時、自分が本当に伝えたいことを心を込めて発表しようと思っていました。なので今回私のスピーチを聞いて少しでも心に響いてくれた人がいたら嬉しいです。練習していくうちに思うように表現できなかったりして壁にぶつかることもありましたが最後は楽しんでやろうと思いました。なので、来年度スピーチをやる皆さんもぜひ楽しんでやってください。そうすれば成功すると思います！これからもこのような賞に恥じないように英語力を高めていきたいです。本当にありがとうございました。



スピーチの部2位 2L 中垣 姫花 さん

今は賞を取れて、嬉しい気持ちでいっぱいです。私はスピーチを書く段階ですごくつまづきました。文法や、スピーチにふさわしい言葉の選び方など、新しく挑戦することがたくさんでとても苦労しました。本選に出た8人でいつも一緒に練習していたことがメンタル面でとても支えになり、すごく良い思い出になりました。



スピーチの部3位 2L ナット珊瑚 さん

今回私が話したテーマは「犬・猫の殺処分」でした。ずっと気になっていたテーマだったのでこれを選びましたが、このテーマと私のかかわりがほとんどなかったので難しかったです。両角さんや中垣さんは自分の体験を基にしていたのに対して私はそういうのがなかったから、気持ちを入れるのが難しかったです。あまり演技するのは得意ではなかったもので、読むときに文の流れ・間・強弱を意識しました。本選出場のみんなと一緒に練習して励ましあって頑張れました。



スピーチの部 ユネスコ協会会長賞 2L 島田 怜奈 さん

スピーチコンテストが終わった今、嬉しいのか名残惜しいのかよくわからない感情にまみれています。最初の原稿を最終的に三分の一になるまで削ったため、本当にこれで自分が意図していることが伝わるのか迷ったことが何度もありました。ですが、先生方の指導を受けることでデリバリーも内容も形になっていき、最終的にはユネスコ協会会長賞を頂けて光栄に思います。このスピーチコンテストを通して、どれだけ周りの方々にサポートされているかを知りました。ありがとうございました。

